

# ぶいぶいばああの家 はか

(森岡)

村木村のぶいぶいばああの家からは、その日も、糸車を回すのどかな音が流れていました。「ぶい、ぶい、ぶい、ぶい……」。

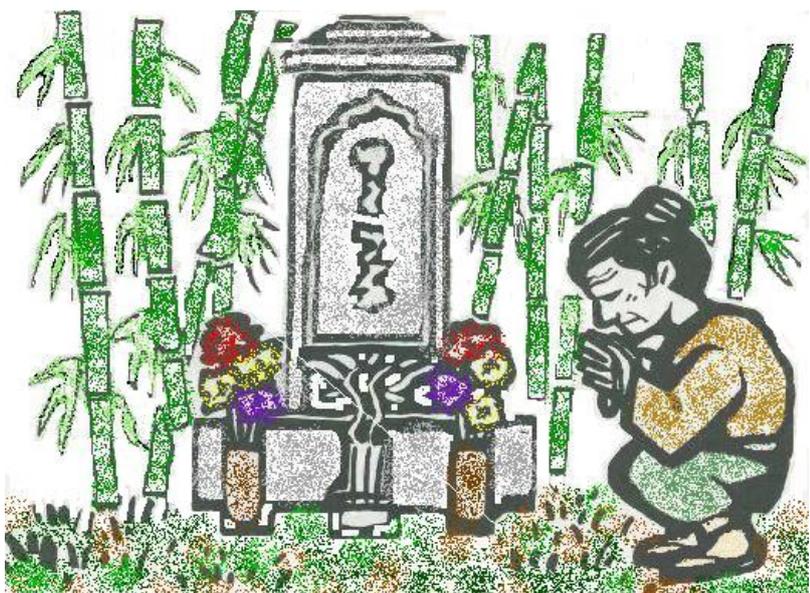
働きもののばあさんが、綿からつむいだ糸を糸車にかけてよりをかけている音です。ばあさんの家からは、いつもこの音が聞こえていたのです。村人たちは、だれもがこのばあさんのことを、「ぶいぶいばあ」と呼んでいたのです。

ある日のことです。ばあさんの家へ一人の傷

ついたさむらいがやってきて、入口のところでばったりと倒れ込んでしまいました。声をかけても返事がありません。驚いたばあさんが急いで傷の手当てをしましたが、傷は肩から腹にかけて斜めに切られた大変深いものでした。

このさむらいは、ばあさんが夜も眠らずに必死でかいほうしたかいもなく、三日めになつてついに息をひきとってしまいました。死を前にして、さむらいは、あえぎあえぎばあさんにこんな言葉を残しました。

「親切、かたじけのうごぎつた。お札にこの刀



やぶに埋めると、刀を売った大金をみんな使つて立派な墓を建て、死ぬまで熱心にお参りしました。

を与えよう。  
金にかえて  
使うがよい。  
い。  
ぶいぶい  
ばばあは、  
このさむらいのなきが  
らを裏の竹



▼ いまも残る「ぶいぶいばばあ墓」

ばあさんが死んでからも、村人は、「ぶいぶいばばあ墓」と言いつつ、いつまでも供養を続けました。この墓は、森岡宇岡田の道路わきに建てています。